

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	9		学校名		茨城県立磯原郷英高等学校				課程	全日制普通科			学校長名			鈴木 治子			
教頭名	濱津 邦仁											事務(室)長名			小松 壮				
教職員数	教諭	18	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手			1	事務職員	3	技術職員等	3	計	35	
生徒数	小学科			1年		2年		3年		4年		合計		合 計 クラス数					
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通 科			21	14	35	13	34	17			90	44	5					

2 目指す学校像

阿武隈の山並み、常磐の大海原と豊かな自然に恵まれ、近代文化発展の先駆けとなったこの地で、地域の伝統及び文化を継承し、地域と共に生き、新しい学校文化を創造するとともに、知性、徳性、体力の調和のとれた人間性やひたむきに物事に取り組む姿勢を養い、適性や能力に応じた生徒一人一人の自己実現と、地域、日本そして世界の明日を担う有為な人財の育成を目指す

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	地域の伝統及び文化を継承し、地域と共に生き、新しい学校文化を創造するとともに、知性、徳性、体力の調和のとれた人間性やひたむきに物事に取り組む姿勢を身につけた、地域社会の活性に貢献できる資質・能力を備えた人財の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	- 多様な学習ニーズに対応できる教育課程の編成 - キャリア教育を中心とした、生徒一人一人の適性と希望に応じた進路を実現するための学びの環境の構築
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	校訓「真摯にしてまなざし高く」を実践し、学校や社会の規範を遵守し、学校内外問わず何事にも、積極的にひたむきにに取り組む意欲のある生徒

別紙様式 1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	74%の生徒の家庭学習時間は1時間未満であり、42%の生徒は家庭学習を行っていない。 授業評価で、教員は教え方を工夫し、熱心に教えていると考える生徒は75%おり、また、80%の生徒が意欲的に授業に取り組んでいるが、授業への集中力に欠ける生徒もいる。	生徒が学習に集中して取り組み、生徒の学びが、主体的な学び、協働的な学び、探究的な学びとなるように授業内容の工夫と改善を図り、生徒の学力の定着と向上を図る
進路指導	82.5%の生徒が、進路に関する行事や進路情報が適切に提供されていると考え、80.4%の生徒が指導や相談がよく行われていると考えている。一方で生徒自身は将来の目標を明確にできず、自己の進路希望に応じた具体的な取組みを開始する時期が遅い。多くの生徒が地元企業への就職を希望している。	生徒の個に応じたきめ細かな進路指導をより効果的に展開するため、1年次より3年間を見通したキャリア教育指導計画の明示を図る
生徒支援	39.1%の生徒が、校則が守られていない場合があると考えている。規範意識に欠ける生徒が見られるが、教員からの働きかけによって挨拶や服装など改善されつつある。しかしながら、まだ十分でない。	規範意識を高め、望ましい人間関係を構築する力を育成する手立ての研究と実践
特別活動	79.4%を越える生徒がHR活動や学校行事が充実しており、生徒が意欲的に取り組んでいると考えている。しかしながら、生徒が主体的に企画立案し、活動しているとは言えない。	生徒が学校行事の企画運営や部活動等に主体的に取り組むための方策の研究と生徒の主体的な活動の支援
働き方改革	昨年度、教職員の時間外在校時間において、月平均時間は17.2時間、月平均45時間超過者割合は0%、月平均80時間超過者割合は0%であった。	教育の質を低下させずに業務内容等の精選を図る研究と実践

5 中期的目標

1	生徒が学校内外での探究的な学び、協働的な学びをとおして確かな学力を身につけ、ひとり一人の適性と希望に応じた進路実現を図る
2	きめ細かな対応に心がけ、基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図り、自律した生徒の育成を図る
3	豊かな心と健やかな体を育成し、活力ある学校生活の源とするとともに、地域社会に貢献できる人財の育成を図る
4	生徒たちに対して効果的な教育活動を行うことができるよう、教職員の在校時間の顕在化と業務改善を図る

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
探究的な学び、協働的な学びをと おして生徒が確かな学力を身につける ための授業実践	①「生徒の知的好奇心を刺激するよう、学びの内容や進め方を工夫している。」と感じる生徒90% 以上 ②「私はじっくりと考え、友人と対話しながら授業に取り組んでいる。」と回答する生徒90%以上 ③「私は知識が深まり、能力が高まるよう、授業に全力で取り組んでいる。」と回答する生徒90% 以上
I C Tの効果的な活用による教育 の質の向上	④タブレットや電子黒板を効果的に活用し、生徒の学びが協働的な学びや個別最適化された学び となるよう、授業改善を図る ⑤「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している。」と感じる生徒 90% 以上 ⑥「生徒の学習状況を把握し、一人ひとりに適切にアドバイスしている。」と感じる生徒 90%以上
ひとり一人の適性と希望に応じた進 路実現	⑦地元企業や地域住民、県内の上級学校との連携など地域の教育力を活かして、「進路に関する行 事や進路情報の提供が適切に行われている。」と感じる生徒85%以上 ⑧「進路に関する指導・相談がよく行われている。」と感じる生徒85%以上 ⑨就職希望者の就職内定率100%達成 ⑩四年制大学、医療看護系専門学校合格者数10名
自律した生徒の育成	⑪集団生活における自己の役割と責任を自覚させ、社会のルールやマナーを守りながら主体的に行 動できる力を育成する ⑫チャイム着席等のルールや、身だしなみを常に意識させることで、秩序ある学校生活を送ること ができるようにする ⑬「生徒は校則や学校の約束を守っている。」と感じる生徒70%以上
地域社会に貢献できる人財の育成	⑭「あ・そ・ぶ・べ・な」（挨拶、掃除、部活動、勉強、仲間づくり）の行動指針を実践させる ⑮地元企業や地域住民との連携など地域の教育力を活かした活動をとおして、地域の一員であるこ との自覚を高め、併せて地域社会で役立つ力を育成する ⑯「生徒は学校生活に対していきいきと意欲的に取り組んでいる。」と感じる生徒80%以上
教職員の在校時間の顕在化と業務 の効率化の推進	⑰授業やその準備に I C T を効果的に活用するなどして業務の効率化を図り、時間外在校時間の 月平均時間を 15 時間以下にする ⑱分掌等の校務に I C T を効果的に活用するなどして放課後等の会議や打合せ等を精選するなど の業務改善を図り、時間外在校時間の月平均時間を 15 時間以下にする